

令和4年度事業報告

令和4年度に実施した事業の概要は、以下のとおりである。

1. 英霊顕彰事業

国を守るために命を捧げ、今日の日本の平和と繁栄の礎となった戦没者の慰霊・顕彰を行うことにより、戦争の悲惨さと平和の大切さを後世に正しく伝え、日本の平和と世界の恒久平和に貢献するため、次の事業を実施した。

(1) 戦跡慰霊巡拝

ア. 「土佐之塔」慰霊巡拝

沖縄や南方地域で散華された本県出身の英霊1万8千5百余柱が祀られている沖縄「土佐之塔」への慰霊巡拝を高知県子ども・福祉政策部長、県議会議長及び遺族の参列を得て、11月20日(日)～21日(月)まで1泊2日の日程で実施した。

21日午前に挙行了した慰霊祭には、地元八重瀬町関係者など沖縄県から15名に参列いただき地元関係者等の協力により、例年どおり厳粛に慰霊祭を挙行できた。

【高知県からの参加人員 11名】

イ. 遺児慰霊友好親善事業等

遺児慰霊友好親善事業では遺族会報や県広報などにより参加者を募ったが、新型コロナウイルス感染症等の影響により、ほぼ全ての地域が事業中止となった。

(2) 英霊顕彰対策事業

県内市町村や各種団体が執り行う追悼式や慰霊祭等に本部役員や支部役員が参列するほか、メッセージや追悼電報を送付し、英霊の慰霊・追悼を行った。

【参列 13ヶ所、追悼電報等対応 2ヶ所】

さらに、高知県護国神社や靖国神社の例大祭等に協力し慰霊・追悼を行った。

(3) 団体参拝事業

国が8月15日に実施する全国戦没者追悼式へ参列する公費対象の遺族代表を県から依頼を受けて募集し、参加希望者の取りまとめを行い、県とともに遺族団を引率・参列し戦没者の追悼を行った。

- ・全国戦没者追悼式参列高知県遺族団

遺族 10名 (子2名 兄弟姉妹1名 孫4名 ひ孫2名 その他1名)

付添職員等 4名 (県職員、遺族会職員等)

2. 広報啓発事業

遺族会報を年4回発行(4,100部発行)し、国の援護行政、日本遺族会の動向や県遺族会及び県下各地域の遺族会の活動状況などの情報を提供することにより、英霊顕彰運動や遺族の処遇改善運動への協力と理解をいただくよう努めた。

また、日本遺族会発行の遺族通信を購読するとともに地区遺族会等に配布し、英霊顕彰運動等の普及を図った。

3. 遺族福祉向上事業

遺族会は、戦没者遺族の処遇改善、遺族の高齢化への対応など多くの課題を抱えており、課題解決へ向けて国等へ働きかける運動を行う一方、会員の資質向上及び遺族運動への理解を深めるための活動を行うなど、主に次の事業を実施した。

(1) 遺族運動推進事業

英霊顕彰、遺族福祉向上を目的とする遺族会活動を推進するため、日本遺族会が主催する各種会議等で、全国の遺族会との意見交換や情報共有等を行った。

日本遺族会が12月12日に都内で開催した第77回全国戦没者遺族大会では、全国の遺族代表281名が参集し、英霊顕彰運動の推進や遺族の福祉向上を訴えた。本県からは、会長、副会長2名、事務局長の合計4名が参加するとともに、大会終了後、地元選出の自由民主党所属国会議員5名の国会事務所を訪問し、遺族会の要望事項実現を要請した。

(2) 老人福祉事業

100歳を迎えた戦没者の妻を表彰し、これまでのご労苦に感謝した。

【表彰者 100歳 10名】

(3) 遺族大会

12月4日に高知会館において、高知県遺族会遺族大会を開催し、47名が参加した。3年ぶりの開催となる今回の遺族大会は、「今後の遺族会の在り方に関する特別委員会」から報告された見直しの方向の基づき経費や規模を縮小した形で開催した初めての大会で、各支部別のテーブルに別れ「支部の現状と今後の在り方」について意見交換会を行った後、全体で支部ごとに発表を行った。

(4) 青年部事業

5月に本山地区、吉野地区、田井地区の3カ所の忠霊塔の清掃活動と土佐・長岡支部との交流会を行い、青年部を中心として17名が参加した。当日は、午前中に忠霊塔の清掃活動を行い、午後から青年部と土佐・長岡支部の交流会を開催し、活発な意見交換が行われた。

12月には、高知県護国神社において、下境内にある慰霊碑・顕彰碑等の周辺や階段から上境内の清掃を行い、青年部を中心として18名が参加した。

また、活動企画メンバーによる会議等や青年部総会を開催し、役員改選や活動方針等について協議等を行った。